## 平成18年度決算の状況

歳入から歳出を引いた収支は、41億円の黒字 となりました。歳入については、市税や地方交付 税などが予算額を上回り、歳出については、できる 限り節約したことから、取り崩す予定であった市の 貯金(財政調整基金)を使わずに済みました。

このページでは 18年度決算の 状況をお知らせ します



歳入総額 7.684億円 差し引き41億円から12億円を貯金とし、 29億円を19年度の歳入に回しました。

歳出総額 7.644億円

前年度比239億円(3.0%)減

前年度比234億円(3.0%)減

貯金 12億円 繰り越し 29億円

> 受けたサービスは市民1人当たり40万円 ※19年4月1日現在の人口(国勢調査ベース)で除して算出

2,660億円

市民税、固定資産税、都市計画税など

市民1人当たり14万円

※19年4月1日現在の人口(国勢調査ベース)で除して算出

諸収入

市税

34.6%

1.166億円

15.2% 貸したお金の返済金や、 宝くじの収益金など

国庫支出金 1,147億円

国が必要だと認めた事業に対して、 国から市に配分するお金

14.7%

地方交付税 1.131億円

支出(歳出)に対して収入(歳入)が不足する 場合に、国が一定のルールに従い配分するお金

5.7%

施設を造るとき 市債 などに借りるお金

435億円

14.9%

その他 1,145億円

国や道が市の代わりに集めた税金や、 ごみ処理の手数料など

老年者控除の廃止や定率 減税の縮減などの税制改 正により、個人市民税が 増えたことなどから、49 億円増加しました。

地下鉄事業への補助が減 少したことなどから、30 億円減少しました。

児童手当、児童扶養手当 分を地方交付税などに振 り分けられたことから、 118億円減少しました。

できるだけ新たな借金を 減らし、前年度に比べ発 行額は188億円減少し ました。

公共事業の見直しを進め、 前年度に比べ173億円減 少しました。

市立大学の整備や国勢調 査が終了したことなどか ら、52億円減少しました。 26.0% 保健福祉費

1.986億円

医療、福祉、保健などに関するお金

16.1%

諸支出金 1,230億円

特別会計や企業会計の運営を補助する お金など

13.5%

職員費

1,030億円

市の職員の給料や退職金など

12.4%

公債費

950億円

施設を造るときなどに借りたお金(市債) の返済金

11.2%

経済費

859億円

札幌の産業を育て、経済を活性化させる ためのお金

10.0%

土木費

763億円

市民の皆さんが使う道路や公園などを 整備するお金

10.8%

その他

826億円

教育やごみ処理に関するお金など

2つの会計で、赤字となりまし た。また、砂防用地先行取得会 計は役割を終えたため廃止し、 残高は一般会計へ引き継ぎま した。

## 赤字会計とその理由

- ●国民健康保険会計 過去の赤字額の累積分
- ●老人医療会計 国庫支出金の減少などによる不足

区分	歳入	歳出	差引
土地区画整理	66億円	66億円	0円
団地造成	1億円	1億円	0円
駐車場	3億円	3億円	1,000万円
母子寡婦福祉資金貸付	3億円	2億円	9,000万円
国民健康保険	1,893億円	1,971億円	-78億円
老人医療	1,715億円	1,732億円	-16億円
介護保険	828億円	811億円	17億円
基金	12億円	10億円	3億円
砂防用地先行取得	1億円	1億円	3,000万円
公債	4,198億円	4,198億円	0円